かながわ
NPO伴走応援プログラム
組織の「現在地」を知り、その先へ「共に」

神奈川県
「令和6年度NPOの組織基盤強化のための伴走支援事業」
実施報告書

かながわ NPO 伴走応援 プログラム

2024報告書

目 次

かながわNPO伴走応援プログラム2024
報告書

プログラム概要…… 2

実施スケジュール…… 4

取組報告…… 5

伴走事例紹介…… 12

組織診断の活用…… 14

プログラムの成果…… 16

参加支援組織…… 20

プログラム概要

かながわNPO伴走応援プログラムは、組織の継続・基盤強化に取り組む意欲のある神奈川県内のNPO法人を対象にした伴走応援プログラムです。
神奈川県「令和6年度NPOのための組織基盤強化のための伴走支援事業」を受託した一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわが、県内の中間支援組織11団体と連携して、プログラムを実施しました。
本プログラムに参加したNPO法人13団体は、自己診断ツール『組織を支える17の視点』を活用して団体の組織課題を探り、多様な経験や専門性を持つ「応援チーム」（中間支援組織、NPO運営の実践者、専門家等）と一緒に、より良い組織づくりをめざしました。

プログラムの目的

本プログラムに参加する県内NPO法人（以下、参加団体）は、自組織の現状把握・課題の可視化を行い、自ら課題解決や組織改善に取り組むとともに、課題に応じた多様な経験・専門性を持つチームによる伴走支援を通じて、組織力の向上、資金調達の強化、事業の拡大等を図る。

県内の中間支援組織は、サポーター（以下、伴走サポーター）として参加団体の伴走支援を行うことで、中間支援組織としての相談対応力等の向上を図る。また、本プログラムを通して、県内中間支援組織のネットワークの強化を図る。

プログラム参加団体の要件

- 県内に主たる事務所を置くNPO法人であること
- NPO法人設立前に任意団体であった時期も含め、県内で3年以上活動していること
- 事業報告書等を提出期限内に所轄庁へ提出していること
- 法人の組織基盤強化や組織改善に意欲があること
- 伴走支援を受けることに関して組織内で一定の合意ができていること
- 本事業の窓口となる担当者を定め、今回の伴走支援に対し、法人として責任をもって対応することができること

プログラムの全体像

参加団体（NPO法人）

県内13団体へ個別に伴走

応援チーム

伴走サポーター
支援センター・中間支援組織

連携・協力

NPO運営の実践者
士業等の専門家など

協力依頼・助言　情報共有・報告　ニーズに応じて協力依頼

かながわNPO伴走応援プログラム事務局
（ソーシャルコーディネートかながわ・藤沢市民活動推進機構）

委託・広報協力　**神奈川県**　報告

伴走応援プログラムの流れ

1. 参加団体の募集・選考・決定、説明会の開催
2. 団体の組織診断、伴走サポーターによるヒアリングなどを実施
3. 組織の特性や課題の理解、組織改善の取組テーマ・方向性を検討
4. 伴走サポーター・専門家と共に、組織基盤強化に向けた取組を実施（ミーティング、研修・ワークショップ、助言・サポートなど）
5. ふりかえり・報告会

組織改善のテーマ（例）

- 組織内コミュニケーション
- 資金調達の計画づくり
- 活動の理念や計画の整理・見直し
- 会議の進め方
- ボランティアの受入れ・コーディネート
- 情報発信
- ITツールの活用
- 業務フローの見直し

2024年度 実施スケジュール

4月5月 周知

・団体募集ハガキの送付
・伴走サポーター説明会の開催

6月 募集

・団体募集開始
・団体募集説明会

7月 審査

・支援対象団体の選考、決定
（一次審査、二次審査）
・第1回伴走サポーター会議

8月 組織の自己点検実施

・伴走サポーターと団体のマッチング
・組織の自己点検（17の視点）説明会
・組織の自己点検シート回答入力
・第2回伴走サポーター会議

8/23
全体会（キックオフ）の開催

9月 伴走開始

・面談・ヒアリング
・組織の自己点検の結果解説
・第3回伴走サポーター会議

10月 取組テーマの検討

・面談・ヒアリング
・支援取組テーマの検討
・第4回伴走サポーター会議

11月

・課題に応じて専門家とマッチング
・組織改善に向けた取組
・第5回伴走サポーター会議

12月

・課題に応じて専門家とマッチング
・組織改善に向けた取組
・第6回伴走サポーター会議

1月 伴走終了

・組織改善に向けた取組
・第7回伴走サポーター会議

2月 ふりかえり・報告

・終了時アンケート実施
・報告の作成

2/21
取組報告会の開催

3月

・報告書発行

特定非営利活動法人
サーフ90藤沢ライフセービングクラブ

中長期的なファンドレイジングの視点から見た広報力と受援力の強化

所在地	鎌倉市
活動開始	1990年4月
法人認証	2020年12月
活動内容	藤沢市鵠沼海岸でライフセービング活動(水辺の監視・救助)等
直近の収入額	98万円(2023年度)

団体の現状と課題

会員(ライフセーバー)の減少・高齢化を課題と感じていた。伴走サポーターとの面談・ヒアリング等によって、ライフセーバーを含めた組織運営人材の確保、支援者・ステークホルダーの獲得の必要性が見えてきた。

支援の方針・取組内容

中長期的なファンドレイジングの視点から見た広報力と受援力の強化を支援対象とした。団体活動現場の視察、他団体へのヒアリング、ファンドレイジング計画の提案・策定を経て、ライフセービング活動を広報するイベントの企画実施を支援。この過程で、団体の価値の再確認やミッションの言語化、地域の同業団体との連携が実現し、組織基盤の強化に寄与した。

伴走サポーター

特定非営利活動法人 鎌倉市市民活動センター運営会議

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

今回のプログラムで得られた視点は今までにない貴重な経験となりました。アクションを起こさなければリターンはない。改めてこのスタイルを原点としていきます。

特定非営利活動法人
Heart & Earth

NPO法人としての活動の基礎固め

所在地	川崎市宮前区
活動開始	2014年4月
法人認証	2015年8月
活動内容	日本と世界の子どもの音楽交流や可能性を広げる自立支援事業
直近の収入額	18万円(2023年度)

団体の現状と課題

代表個人の意思で行っている活動であり、他のメンバーは協力しているという印象だった。設立時の想いを、他のメンバーや周囲に分かりやすく伝えられていないこと、他のNPOや中間支援組織等とのつながりが薄いこと、会員制度や会費の仕組み、総会や理事会など組織運営の基礎が整っていないことを支援課題と捉えた。

支援の方針・取組内容

ロジックモデルづくり、多文化共生や海外支援の他団体との関係づくり、かわさき市民しきん(コミュニティファンド)の活用検討、単年度の活動報告・活動計画づくりなどへの取組を通して、代表一人で考え進めてきた活動を、理事や会員と共に活動していけるようきっかけが作れた。

伴走サポーター

特定非営利活動法人 ぐらすかわさき

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

プログラムに応募したきっかけは、「NPO法人の基盤固め」でした。半年間で様々なことを学び、私自身の活動の方向性を明確にすることができました。これからは、学びを活かし、形にしていく段階に入ります。今後は、理事をはじめとする多くの方々のお力を借りながら進めていきたいと考えております。

NPO法人　事業承継と認知症を考える会

活動趣旨や事業内容を伝える小冊子を制作

所在地	川崎市中原区
活動開始	2001年11月
法人認証	2001年11月
活動内容	相続・事業承継相談・セミナー 家族信託・成年後年制度相談等
直近の収入額	47万円(2023年度)

団体の現状と課題

相続・事業承継などの無料相談やセミナーを行っているが、相談件数が少なかった。母体が会計事務所のため、NPOの事業内容と会計事務所の業務の違いが外部から解りにくかった。メンバーの多くが､情報発信力が弱いと認識していた。

支援の方針・取組内容

団体の思いや活動を伝える手段として、専門家のコンサルティングを受けながら､小冊子を制作。代表のインタビュー記事や、介護や終活に関するコラムを掲載するなど、伝えたいことをわかりやすく伝える工夫をした。区役所や地域包括支援センター、市民活動センターを訪問して、冊子配架の協力を依頼した。

伴走サポーター

一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

小冊子作成のプロよりアドバイスを受け、作成のノウハウ、ターゲットに合わせた情報発信の手法を学ぶことができ、団体の活動を簡潔にアピールすることが可能になった。実際に小冊子をベースにしたセミナーが好評で、今後のセミナー実施の活力となった。

NPO法人　ライラック心の会

専門家とマッチングして経営改善の道筋をつける

所在地	愛川町、厚木市
活動開始	2019年7月
法人認証	2021年11月
活動内容	精神障がい者、精神疾患の方と家族の｢生きづらさ｣の軽減
直近の収入額	918万円(2023年度)

団体の現状と課題

精神障がいを抱える方の自助グループとして発足し､現在は相談支援事業を中心に活動している。収支が赤字となっており、経営の見直しが必要となっていた。ヒアリングで、代表者に集中傾向にある団体の収支管理の状況が伺えた。

支援の方針・取組内容

代表者への負担の偏りや事業別の収支状況の把握がしづらいなど課題提起を行ったうえで、これらの解決に向けて団体内で検討を求めた。中小企業診断士とマッチングし、収支実績や事業見通しなどの分析・ヒアリングを通じて団体経営の脆弱な部分を掘り起こし、経営改善に向けた具体的な助言を行った。

伴走サポーター

ざま市民活動応援広場、一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

理事の立ち位置など提案して下さり、現在、法人全体の運営など変えていく方向で動いております。NPO伴走支援を入れたことで、気付かされ変化できたことは、凄く私にとって転機だったことだと思います。伴走自体は終了してしまいますが、関わっていただいた関係者の方とは繋がりを大事にしたいと思っております。

特定非営利活動法人　セカンドリーグ神奈川

理事会と事務局の連携強化に向けて布石を打つ

所在地	横浜市港北区
活動開始	2010年4月
法人認証	2012年10月
活動内容	地域福祉関連の相談・コーディネート、フードバンク事業等
直近の収入額	879万円(2023年度)

団体の現状と課題

職員は、法人の設立母体であるパルシステム神奈川から派遣を受けている。事務局にヒアリングの結果、フードバンク事業などの業務量が拡大するなか、現場の作業や悩みごと等を理事会に理解してもらい、法人運営にもっと関わってもらいたいという思いがあることが見えてきた。

支援の方針・取組内容

理事会と事務局の意識の差を埋め、より良く協働できるよう、事務局とのコミュニケーションのハブとなる担当理事を置いてもらうことを提案した。認定NPO法人化を検討していることがわかったため、認定取得に向けた準備などの情報提供・助言を行った。

伴走サポーター

特定非営利活動法人YMCAコミュニティサポート、一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

支援団体に話を聞いてもらい、非営利組織として同じようなことで悩んでいるとわかり、心の安定感につながった。組織の自己点検を契機に、事務局と理事会のかい離を問題提起し、担当理事の設置を提言、実質的内容は通せた。認定NPO法人化し、ガバナンスや財政など組織基盤を安定させ、地域福祉の課題に取り組んでいきたい。

特定非営利活動法人　よこはま言友会

安定した運営継続に向けた資金管理を提案

所在地	横浜市南区
活動開始	1994年1月
法人認証	2002年1月
活動内容	吃音児への支援、吃音症当事者として吃音を啓発する活動等
直近の収入額	71万円(2023年度)

団体の現状と課題

吃音児への支援(親子きつおん交流会)と吃音の啓発活動(吃音フォーラム)に力を入れている。会員同士がつながることによってわかちあいの場となり、吃音があっても楽しく豊かに生きられる活動を大切にしている。安定した資金繰りが課題であり、寄付も募りながら安定した運営を継続したいと考えている。

支援の方針・取組内容

過去5年の収支実績から財源構成を整理し、会費収入を柱に寄付金や助成金を活用して活動費を賄う考え方を確認した。支出の削減案や賛助会員募集に向けての見通しの整理、助成金リストの作成・配信機材の導入提案も行った。

伴走サポーター

特定非営利活動法人YMCAコミュニティサポート、一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

賛助会員制度が復活しました。先日のフォーラムで募集したところ5名の方が賛助会員になってくださりました。会の運営に関わるお金は会費で賄うなどお金の考え方が身につきました。今後も参加者がとにかく楽しいNPOを目指します。

特定非営利活動法人　はたらくらす

団体メンバーと理念やビジョンを共有する

所在地	川崎市幸区
活動開始	2017年11月
法人認証	2017年11月
活動内容	子育て支援事業、小学生対象の教育事業、ひとり事業家支援等
直近の収入額	1,066万円(2023年度)

団体の現状と課題

事業に関わるメンバーが増えるなか、安心して働ける環境を整える必要性を感じてプログラムに応募した。「組織の自己点検」の結果やコアメンバーとの面談から、組織内外に団体のミッションや将来イメージが明確に伝わっていない懸念があることが見えてきた。

支援の方針・取組内容

概念的なミッションは解釈やイメージが人によって違うこともあるので、活動を続けていく中で事業が多岐に渡り、メンバーも増えてくると、ズレが生じてきやすいものだと思われる。今回は、現場で活動するメンバーの声を聞くワークショップを2回開催した結果、メンバーからは、法人のミッションをよく理解したうえで動いてくれていることが確認された。

伴走サポーター

公益財団法人かわさき市民活動センター

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

今まで、団体の理念やビジョンを役員としか共有していなかったが、スタッフにも共有でき、共通理解ができてよかった。「女性のはじめの一歩をあとおしする団体」という、団体としてのミッションが見つかり、土台の強化になったと思う。

特定非営利活動法人　にゃぶ・猫を保護する人を増やす会

団体の認知度アップに向けた効果的なSNS発信

所在地	横浜市泉区
活動開始	2002年9月
法人認証	2023年1月
活動内容	動物愛護精神の普及、地域の猫の保護、里親へ結びつける活動
直近の収入額	731万円(2023年度)

団体の現状と課題

任意団体として保護猫活動を長く続けてきたが、基盤を固めた上で次世代にバトンタッチできるよう法人を設立。まずは活動の周知を図り、会員数や寄付者を増やし、最終的に黒字経営につなげて安定化を図りたいと考えていた。

支援の方針・取組内容

資金不足も大きな課題であったが、今回はSNSの強化を図り社会的認知度を上げ、理解者協力者を得ること、メンバー間の意見を共有する場を設定する事を優先した。具体的には、SNSの効果的な活用についてのコンサルティング、他の保護猫団体とのZoom意見交流会、団体メンバーの意見を集めるスキーム作りを行った。

伴走サポーター

特定非営利活動法人くみんネットワークとつか

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

譲渡会の来場者数アップに向けてSNSの改善ができた。対極にある団体の代表に直接お話を聞くことができ、今後の指標になった。団体としてさらに大きくなることを望んでいる。ひとりでも多くの人の共感を得ることで、成し遂げられることも多くなる。

特定非営利活動法人　ヴォース・ニッポン

23年間の事業を振り返り、成果と課題を可視化する

所在地	小田原市
活動開始	2001年3月
法人認証	2001年3月
活動内容	海水表層の観測データの取得、整理、解析および公開
直近の収入額	342万円(2023年度)

団体の現状と課題

発足から20年以上となり、メンバーも高齢化してきた。活動の担い手、特に次の代表として法人を担っていただける方を求めていた。それも踏まえ、法人の有り様を客観的に把握し、外部の視点を通して見直したいと考えていた。「組織の自己点検」の結果、これからの組織について話し合いがされていない様子が見えた。

支援の方針・取組内容

丁寧な聞き取りからスタートとして、23年間の事業の成果を振り返り、現時点において何が問題なのかを整理し、それを見える化することでメンバーが確認・検討できるようにした。

役員で振り返り共有する機会をつくること、NPO法人の役員としての役割の再確認、海洋調査に関係する諸団体へのアンケートとヒアリングなどの取組を通して、組織の課題を理事会メンバーである程度共有することができた。

伴走サポーター

特定非営利活動法人湘南NPOサポートセンター

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

理事会を開催でき、やや曖昧となっていた活動の課題が整理され、内部で共有できました。法人の社会的な役割を今一度、改めて捉え直し、特に担い手の発掘に重点を置きながら、今後も、組織の基盤を整えていければと思います。

特定非営利活動法人
ハクサンスポーツ少年団FCバモス

法人の今後の方向性を考えるための情報を提供

所在地	川崎市幸区
活動開始	1993年
法人認証	2009年3月
活動内容	小学生対象のサッカーチームの運営
直近の収入額	1,359万円(2023年度)

団体の現状と課題

コロナ禍の影響を受け、サッカークラブの会員が減少すると運営が不安定になるため、多様な資金調達や、ボランティアスタッフの増員など、様々な角度から安定した運営を目指したいと考えていた。ヒアリングの結果、運営面の課題を気軽に相談できる相手が少ないこともわかってきた。

支援の方針・取組内容

ヒアリングで現状の課題を把握し、対話を重ねることで、団体が今後の方向性を整理する一助となるよう努めた。サッカーチームを柱に多角的な事業運営を行う県内のNPOにヒアリングを行い、その特徴や工夫点を整理して伝えた。また、NPOの多様な資金調達方法について、団体が今後の運営に活かせるよう情報提供した。

伴走サポーター

NPO法人まちラボ、特定非営利活動法人アクションポート横浜

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

今回、自分達の活動分野以外のNPO法人を運営されている方々と初めてお会いし、色々とご相談をさせて頂く中で、改めて法人として、どの方向に進んだら良いのかを多面的に考える機会を与えて頂けたと思っております。法人としての進むべき道を考える機会を得られたと同時に、一人ひとり個人としても将来を真剣に考える時間になっていったと捉えています。

NPO法人 ZIRITSU

ボランティアと組織の相互理解と関係性を強くする

所在地	横浜市栄区
活動開始	2013年7月
法人認証	2015年7月
活動内容	社会的養護施設や里親の元で生活をしている子どもたちに対し、リモートによる学習支援
直近の収入額	8万円(2023年度)

団体の現状と課題

社会的養護の子どもたちへの学習支援(ITを基本とした「生きる力」の指導)を行っている。経理・広報・授業等、多くのボランティアが必要だが、ボランティアの想いを十分に汲み取る余裕が無かった。

支援の方針・取組内容

団体とボランティアの想いのミスマッチが起こらないための研修制度をつくりたいということで、生成AIを活用し、研修資料の作成を進めた。作成と検証を繰り返し、研修実施まで質を高める作業を行なった。生成AIを用いて、テキスト、画像、スライドを作成した。

伴走サポーター

特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

自組織が漠然と課題と捉えていたボランティアさんとの関係性の弱さが明らかになり、コミュニケーションの重要性を改めて認識できた。ボランティアさんと組織のお互いの理解と関係性を強くするためのオリエンテーションや進むべき方向の見える化を研修資料という形である程度作成することができ、研修会を開催し、理解と協力関係の強化に繋がった。

特定非営利活動法人 湘南ビジョン研究所

団体内の見えやすさ・動きやすさの改善をめざす

所在地	藤沢市
活動開始	2011年5月
法人認証	2013年12月
活動内容	湘南地域の海の環境活動、湘南VISION大学の運営
直近の収入額	774万円(2023年度)

団体の現状と課題

法人設立から10年以上が経過、正会員が100名を超えた。会員数の増加や活動の広がりに伴い、活動メンバーは、自身が関わる事業以外の状況が見通しにくくなっていた。また、個々の事業について誰に確認すればいいかが明確でなかった。メンバーの活動への意欲は高く、情報共有体制の改善などに積極的な意見を持っていた。

支援の方針・取組内容

団体内の見えやすさ・動きやすさの改善、メンバーの意見や希望を集約する機会を作ることを目標とした。現役世代のメンバーが多く、面談含め全てオンラインで実施。全体ヒアリング、理事長ヒアリング、グループワークを通じて、組織構造の可視化、個別チームや今後の団体に対するメンバーの希望や意見の共有を図った。

伴走サポーター

特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

プログラムでの学びを基に、以下の取組を実施しました。①活動内容の可視化(活動内容やプロジェクトの体制図を作成し会員に共有)、②会員間の交流促進、③リーダーシップ体制の構築(各プロジェクトリーダーを選任し、理事長の権限を各リーダーに移譲)。引き続き、学んだことを会員間で共有し、着実に実践してまいりたいと考えております。

特定非営利活動法人　子育てネットワークゆめ

新しい事業展開に向けて自分たちの未来を可視化する

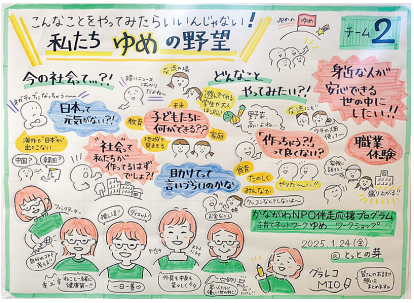
所在地	横浜市泉区
活動開始	1999年9月
法人認証	2003年1月
活動内容	親と子の常設居場所の運営、相談、子育てに関する情報発信等
直近の収入額	10,242万円(2023年度)

団体の現状と課題

少子化対策として新しく「こども誰でも通園制度」が始まるなど、子育て支援の現状が刻々と変化していく中で、現場スタッフも交え何が必要かを意見交換し、新しい事業展開につなげていきたいと考えていた。

支援の方針・取組内容

「組織の自己点検」の結果、法人としてしっかり運営されていることがわかった一方、世代間で意識の差が見えた。そこで、子育て支援の現場で働く50代のメンバーを対象にワークショップを開催し、個人の夢や法人の今後に向けての考えを同世代のメンバーとしっかり言葉にして共有できる場を作った。



伴走サポーター

特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

同世代によるワークショップで今までは漠然と考えていた自分たちの未来をグラレコ(グラフィックレコーディング)を通して可視化できた。そしてその未来が法人としての活動につながっていること、ゆめの仲間たちが同じ方向を見ることを共有できたことがよかった。子育てに関する社会課題について、それぞれで取り組めるもの、法人で新たに対応するものなど事業間で話し合いができる機会をつくりたい。

参加団体と伴走サポーターによる取組報告会を開催(2025年2月)

特定非営利活動法人 Heart＆Earth

団体がプログラムに参加した理由

日本と世界の青少年が音楽を通じた交流で相互理解を深め、世界平和に貢献することを目指す同会は、設立から10年が経過した。これまではイベント時に資金を募り、ボランティアの協力で運営してきた。代表の強い思いを原動力として続いてきた活動で、役員や会員の主体性が不足し、NPO法人としての組織成熟度も低い。活動の広がりに限界を感じ、定款の見直しや会員募集、資金調達の強化等の組織基盤強化が求められた。

どのような伴走をしたか

そこで、次のような伴走支援を行うことにした。①団体の活動を整理し、ロジックモデルを作成する。②多文化共生や海外支援に取り組む他団体との連携や、コミュニティファンド、プロボノマッチングサイトの活用を検討する。③単年度の活動報告や計画を作成し、団体の事業を明確にする。

団体の変化、支援組織の感想

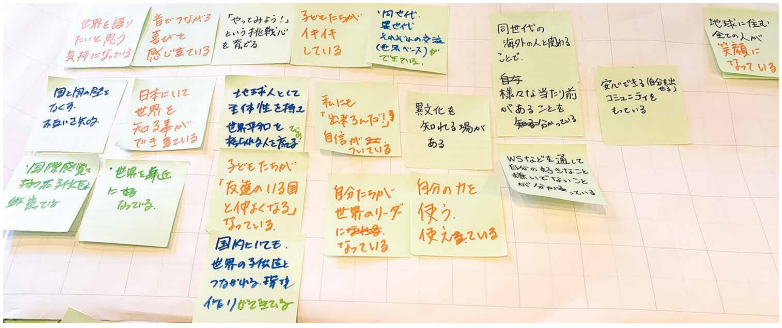
同会は「代表のファンクラブ」のような雰囲気が強く、NPO法人としての継続・成長には限界があった。しかし、第三者を交えた意見交換を重ねる中で、団体のメンバーが活動を客観視し、主体的に意見を表明する場面が生まれた。メンバーが自身の言葉で会への期待や想いを語ることで、代表にもその意識が強く伝わり、団体のあり方について深く議論でき、組織運営の新たな方向性が見えてきた。今後、メンバーの自己実現の場としても変革していければ、持続的な発展につながるだろう。

ロジックモデルの作成では、付箋の記述以外に、雑談の中からも活動への期待が広がり、それぞれの役割をイメージするきっかけが生まれた。ロジックモデルの完成には至らなかったものの、論理的な思考の枠組みを体験してもらうことができ、対面で議論することの重要性も再認識された。今後も継続的な議論が期待される。

さらに、マンパワー不足の中で、プロボノや助成金情報へのアクセス、地域の中間支援組織の活用など、外部資源を取り入れる手段も学ぶことができた。また、類似テーマの活動団体とつながることにより、連携の可能性や新たなヒントを得ようという意識も生まれた。

メンバーが議論に参加することで、代表が計画書を形にする意欲も高まった。中期計画、単年度計画、個別プロジェクト計画の必要性が共有され、役割分担や収支計画との連動についても理解が進んだ。会員制度の再構築や定款の見直しなど今後の課題は多いが、既存のやり方をそのまま継続するのではなく、全員で検討しながら作り上げることの重要性が共有された。

（特定非営利活動法人ぐらすかわさき
田代、池上）



特定非営利活動法人
にゃぶ・猫を保護する人を増やす会

団体がプログラムに参加した理由

「にゃぶ・猫を保護する人を増やす会」は2002年から保護猫活動を開始し、2023年にNPO法人化した団体です。現在、主な活動メンバーの半数以上がボランティアであり、団体を継続していくためには、会員を増やし、活動資金を確保する必要があるという課題を抱えていました。そこで、より多くの人に保護猫活動に関心を持ってもらうために、効果的な情報発信の方法についてアドバイスやサポートを受けたいと考え、本プログラムに参加されました。

どのような伴走をしたか

「17の視点」の分析やヒアリングを通じて、団体メンバー間の意見交換の機会が少ないことが明らかになりました。また、主な活動メンバーは現役世代が多く、対面での集まりが難しいという意見もあったため、Zoomを活用したミーティングや柔軟な時間設定を工夫し、できるだけ多くのメンバーが参加できる環境を整えました。

さらに、期間中は団体のホームページを定期的にチェックし、譲渡会にも訪問するなど、活動を直接感じながら伴走することを心がけました。

実際に行ったサポート内容

団体の皆さんと検討し、以下の3つのサポートを計画・実施しました。

1つ目：「SNSの効果的な活用について」
認定NPO法人森ノオト様にご協力いただき、12月に団体のホームページやインスタグラムなどの情報発信内容を分析。その結果をもとに、Zoomミーティングでより効果的な情報発信方法を提案していただきました。さらに、アフターフォローを2回実施し、ブラッシュアップを図りました。

2つ目：「他の保護猫団体とのZoom意見交換会」
団体メンバーに交流を希望する団体をリサーチしていただき、1月に福岡県で「ペット信託」という独自の方法を用いた保護猫活動を行っているCafe Gatto様との意見交換会を実施しました。目的は同じでも、手法が異なる団体同士の有意義な意見交換の場となりました。

3つ目：「団体メンバーの意見を集めるスキームづくり」
Googleフォームを活用した意見収集方法を提案し、具体的な項目例を作成・提供しました。今後、団体内での意見収集の際に活用いただけることを期待しています。

プログラムによる団体の変化、伴走サポーターの感想など

団体メンバーの皆さんが、SNS投稿の統一化に迅速に取り組んだことで情報が整理され、譲渡会の参加者やインスタグラムのフォロワー数が増加するなど、具体的な成果が見られました。また、他の保護猫団体との意見交換を通じて活動の方向性を再確認でき、より前向きに取り組めるようになったとの感想をいただきました。

伴走サポーターとしては、短い期間ではありましたが、団体の課題解決に少しでも貢献できたのであれば幸いです。また、複数のスタッフで伴走することで、団体の課題を深く理解し、支援内容をチームで検討する機会となり、私たちにとっても貴重な学びとなりました。

最後に、事務局の皆さまには多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。神奈川県内の中間支援組織が連携し、本事業を推進できたことは、大変意義のあることだと感じています。

（特定非営利活動法人くみんネットワークとつか
中嶋、依田、中田）

組織診断の活用

本プログラムでは、伴走支援による組織基盤強化の取組を進めるにあたり、市民組織の自己診断ツール『組織を支える17の視点』を活用しています。団体の活動や運営に関わる複数のメンバーに、17の設問で構成される「自己点検シート」に回答いただき、回答者全員の回答結果を集計・分析することで、組織課題の発見と課題解決のためのコミュニケーションに役立てました。

『組織を支える17の視点』とは

組織基盤強化につながる団体の組織力の現状把握を目的に、特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構が開発した組織の自己診断ツールです（開発の経緯は下記コラム参照）。
この診断ツールは、ミッション、リソース、ガバナンスの3つの観点から作られた17の設問によって、団体メンバー（役員・スタッフ・ボランティア・会員など、団体の活動・運営にかかわる様々なメンバー）の組織運営に関する意識・認識の状況を確認し、これを数値化して集計・分析した集計結果表を読み解くことで、組織特性を理解し、課題を見つけることができる自己診断ツールです。

参考

特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構　https://f-npocafe.or.jp/
地域版組織診断システムの運用(「17の視点」について)　https://f-npocafe.or.jp/466

『組織を支える17の視点』開発の経緯

自己診断ツール「組織を支える17の視点」は、認定NPO法人藤沢市民活動推進機構（藤沢市）が公益財団法人日本非営利組織評価センター (以下、JCNE)の協力により開発したツールです。
藤沢市民活動推進機構は、非営利組織の評価に関する調査研究事業を2010年代から開始しました。2014年に公益財団法人パブリックリソース財団より市民活動組織の組織診断・評価に関するノウハウ移転を受け、地域版として活用するため、フォーマットをカスタマイズし、団体の支援を実施しました。2015年のパナソニック(株)の組織基盤強化支援の経験と、横浜市のNPO法人の組織基盤強化に向けた組織診断と課題解決の取組支援（よこはま夢ファンド）の経験を生かし、組織運営に係る問題点を掘り下げ、組織診断のポイントを特定していきました。
2016年12月に「休眠預金活用法」が成立し、NPOの資金調達や寄付の流れが変わりつつある中、市民活動団体は信頼される組織として、自組織の組織基盤・ガバナンスを内外に示す必要性が高まりました。さらに「社会的インパクト評価」がクローズアップされる中、「評価」の導入についての研究が急務となっていました。「NPOの評価」がNPO支援において重要な要素になることを踏まえ、本格的に非営利組織の自己診断ツールの開発検討に入りました。2018年にJCNEの「非営利組織の第三者書面組織評価」を受診し、組織評価のノウハウ等参考情報を学んだ後、JCNEが実施しているベーシック評価（現「ベーシックガバナンスチェック制度」）の導入の前段としての組織基盤強化ツールの開発を連携事業として進め、「組織を支える17の視点」のベースが完成しました。2020年度及び2021年度の「かながわボランタリー活動推進基金21 ボランタリー団体成長支援事業」で本ツールを活用し、市民活動団体の組織基盤強化及び伴走支援事業を進めました。

（認定NPO法人藤沢市民活動推進機構）

『組織を支える17の視点』の17の設問

1 貴団体は、設立時の活動への想い(組織の目的)が文書になっていますか？
また、組織の目的は一緒に活動している人たちに理解・共有されていると思いますか？

2 貴団体の活動目的には、社会や地域を何とかしたいという想いや、今までにない新しい取組が込められていると思いますか？

3 貴団体の組織のルール(定款等)は文書になっていますか？また、活動に関わる人たちもそれを知っていますか？

4 貴団体は、役員(理事、監事)の役割や決め方を決めていますか？

5 貴団体は、活動の計画書・報告書を毎年作成していますか？

6 貴団体は、活動の予算書・決算書を毎年作成していますか？

7 貴団体は、新たなボランティア、スタッフなどを受け入れる体制ができていますか？
(たとえば、人材育成担当スタッフの存在や受け入れ説明会の開催など)

8 貴団体は、必要な資金の調達を行う工夫をしていますか？

9 貴団体の今の活動は、設立時に何とかしたいと思った課題の解決に向かっていると思いますか？

10 貴団体は、活動に役立ちそうな社会情勢の変化を追いかけていますか？

11 貴団体は、活動に関わる人たちの満足を得るための工夫をしていますか？

12 貴団体は、広く社会に向け、働きかけや団体情報等の情報を発信していますか？

13 貴団体は、会議(総会、役員会、理事会、運営委員会等)の記録(議事録等)を作成し保管していますか？

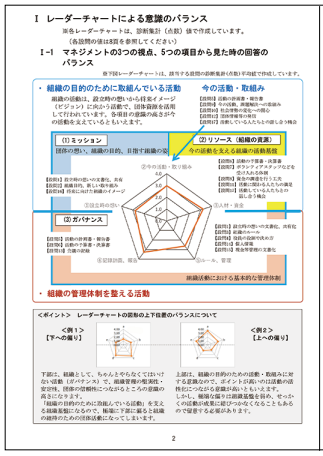
14 貴団体は、個人情報を適正に管理していますか？（たとえば、取得目的の明示等）

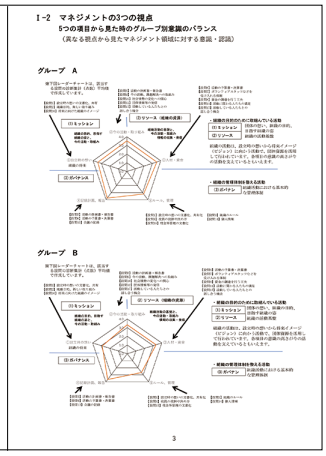
15 貴団体は、現金・通帳・帳簿類、印鑑などの管理についてのルールが文書になっていますか？（たとえば、複数人による管理等）

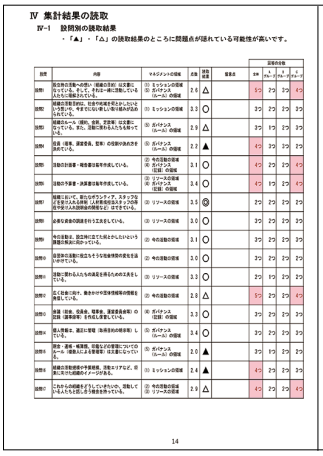
16 貴団体には、組織の活動規模や予算規模、活動エリアなど、将来に向けた組織のイメージがありますか？

17 貴団体は、これからの組織をどうしていきたいか、活動している人たちが話し合う機会を持っていますか？

組織の「今」が
集計結果表としてカタチになります！

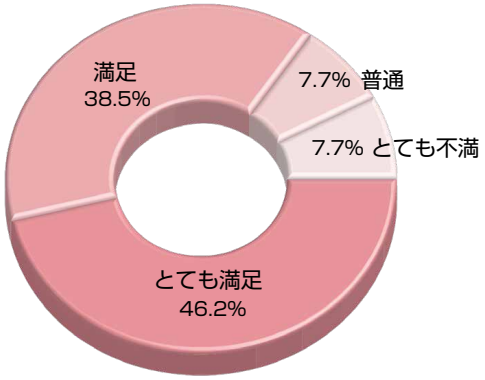




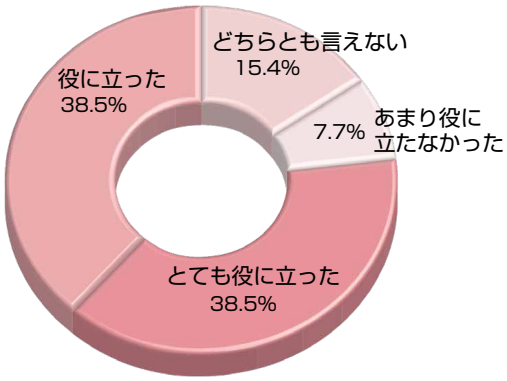


参加団体 アンケート結果
（回答数13団体）

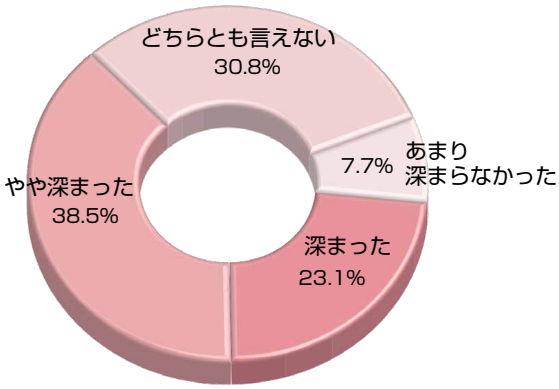
❶本プログラムにどのくらい満足しましたか



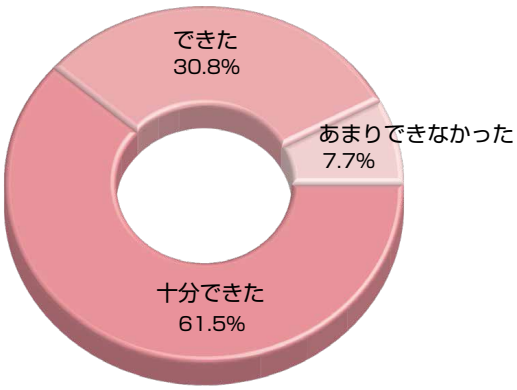
❷本プログラムは貴団体の組織基盤強化に役立ちましたか



❸組織の自己点検（17の視点）に回答したことで、貴団体の組織課題への理解が深まりましたか



❹団体を担当した伴走サポーターと情報共有や意見交換が十分できましたか



アンケート結果　自由記述回答より

本プログラムは貴団体の組織基盤強化に役立ちましたか

・**会員の思いを知ることができた。**賛助会員制度が復活し、既に数名の方が申し込んでくれている。

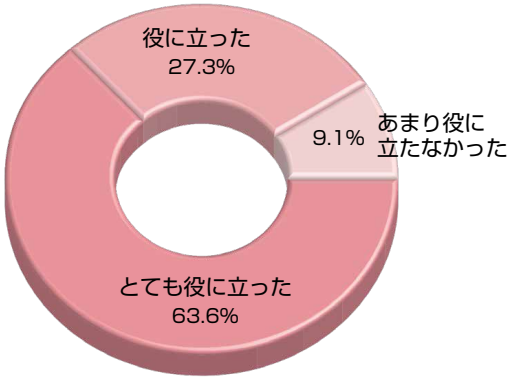
・後回しにしていた案件に取りかかることができた。**どのようなNPOにてしていきたいのか明確になり**、やることがはっきりした。

・本プログラムが実際の基盤強化につながったとは断言できないが、支援団体との**対話やアドバイスでの気づきや着想**もあり、後で役に立つことも多いように思う。

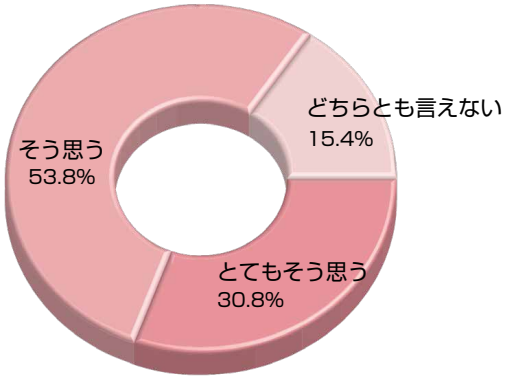
・数年前から意識をして少しずつ組織基盤強化を実行してきたつもりだったが、客観的にみてどうなのか不安があった。今回「組織の自己点検（17の視点）」を行い、全般的にバランスが良い、法人としての方向性を全員で確認しながら進めていると聞いてほっとした。**良い意味で第三者の介入が心強かった。**

・申請内容にとらわれず、**当団体が必要としている支援**をして頂いた。

❺専門家の助言や支援は組織基盤強化に役立ちましたか

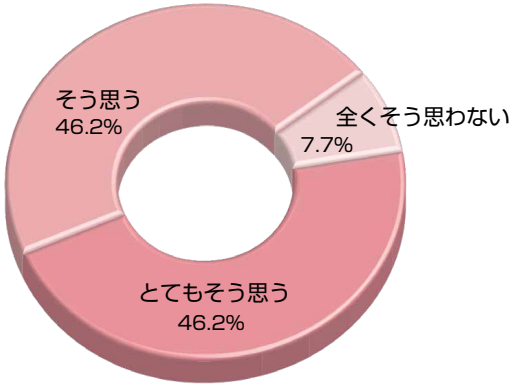


❻本プログラムに参加したことで、団体のなかに変化が生じたと感じますか

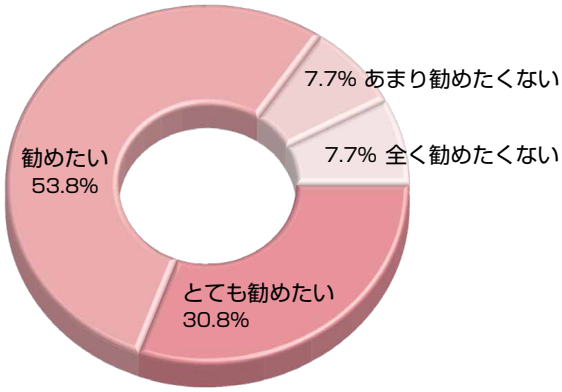


☆改善にみんなで取り組むことができた
☆理念やビジョンをスタッフも話すようになった
☆理事長の権限を各リーダーに移譲した
☆役員が団体に対し自分ごととしての意識が出てきた

❼今回の伴走支援の取組は、貴団体の成長や新たな展開につながると思いますか



❽本プログラムへの参加を他のNPOにも勧めたいと思いますか



※四捨五入のため割合の合計が100%にならないものもある

本プログラムについて、ご意見・ご感想など

・当初、プログラムの実質的な支援期間が短いかな、と思いましたが、詰め込み過ぎずテーマを絞れば今回の期間でも十分でした。

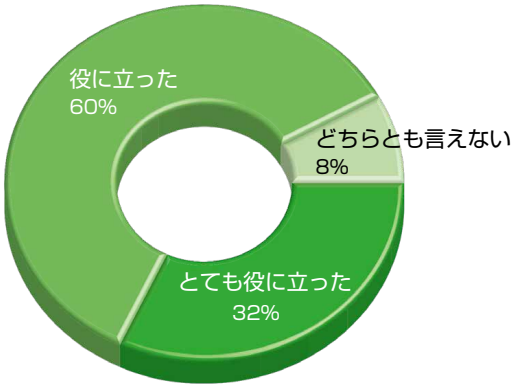
・もし当法人が選考で選ばれていなかったら、今も一人で悪戦苦闘していたことと思います。まずはNPOの基盤をしっかりと整え、そして代表である私自身の意識が変わることで、流れも変わっていくのではないかと感じています。

・色々と相談を聞いて頂き、ありがとうございました。今後も多岐にわたり、アンテナを張り巡らせながら情報収集を行って、チャレンジしていきたいと思います。

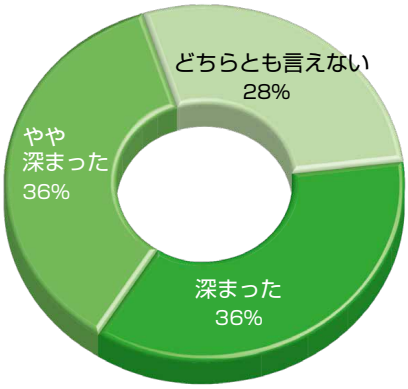
伴走サポーター アンケート結果

（回答者数25名）

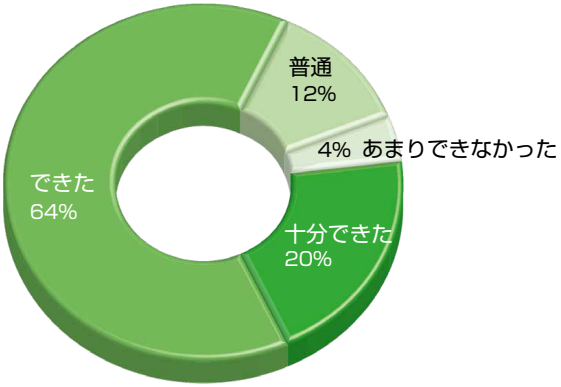
❶本プログラムは、あなたの相談支援力の向上に役立ちましたか



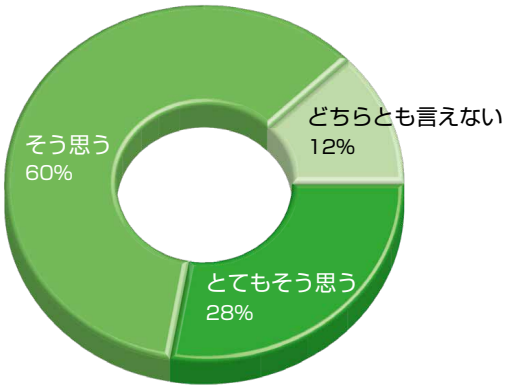
❷組織の自己点検（17の視点）を実施したことで、あなたが担当した団体の組織課題への理解が深まりましたか



❸担当した団体と情報共有や意見交換が十分できましたか



❹今回の伴走支援によって、担当した団体のなかに変化が生じたと感じますか



アンケート結果　自由記述回答より

本プログラムは、あなたの相談支援力の向上に役立ちましたか

・様々な課題を抱えながらも、立ち止まらずに活動を続けている団体と数カ月間にわたって、共に課題に向き合い、共に解決への糸口を探ることは、大変得難い経験だった。

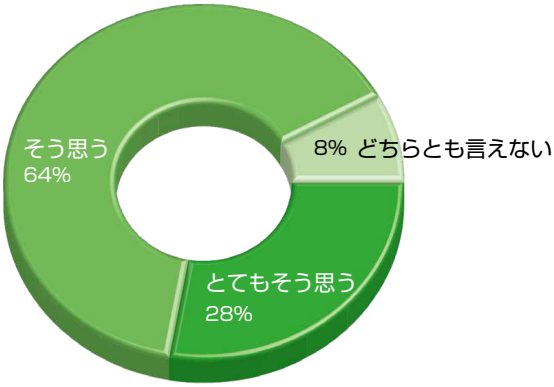
・全く知らない団体、活動分野にどう伴走・アプローチするかを考える良い経験になった。

・何を期待されているのか、見当違いな応援プログラムにならないよう、基本に戻り丁寧に団体の想いを聞く事に注力した。

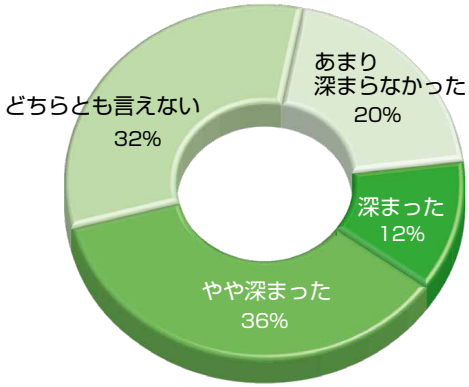
・深く伺うことで、最初の困りごとと、実際の困りごとの隔たりが大きいことがわかり、じっくり聞き取ることの大切さを改めて知ることが出来た。

・普段いろいろな団体の相談業務を行っている方々の様子を見て勉強になった。補助的な役割は果たせたかと思うが、自分自身は知識も乏しく、まだまだ力不足だと実感した。

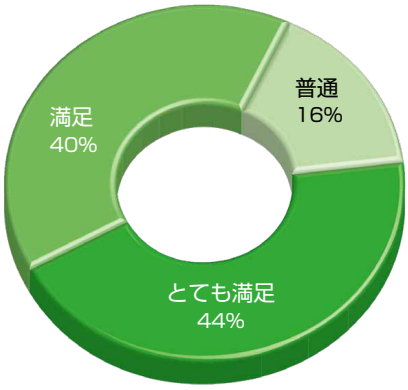
❺今回の伴走支援の取組は、担当した団体の成長や新たな展開につながると思いますか



❻本プログラムによって、他の中間支援組織とのつながりが深まりましたか



❼伴走事務局のフォロー体制の満足度



団体に伴走して、気づいたことや学んだこと

・団体の活動応援に必要なプロセスを再認識することができた。

・サポートの方向性がまとまった段階でも、団体の中でのコンセンサスの取り方があるので、団体のペースに合わせつつも前にすすめていくバランスも大切だと感じた。

・やはり「正解」があるものではないので、団体のなかでもいろんな人と対話していくことは大切なこと。

・あらためてNPO法人の在り方について考えさせられることが多かった。

・専門家から提示されたレポートを読み、多角的な財務分析による気づきに学ぶところが多かった。

・今回のように団体組織の中にここまで入り込んだのは初めて。切実な実情を肌で感じ、今後についても見守っていけるのであればそうしたいと思った。

・スーパーバイザーの役割を担う経験は大変貴重だった。個性を認めつつも、違和感を持った点をどこまで指摘するか、悩ましかった。

本プログラムに参加した伴走サポーター 一覧

支援組織名	メール/HP
❶ 公益財団法人かわさき市民活動センター〔かわさき市民活動センター〕	suisin@kawasaki-shiminkatsudo.or.jp
❷ (N)くみんネットワークとつか〔とつか区民活動センター〕	https://totsuka-kumin-center.jp
❸ (N)YMCAコミュニティサポート〔横須賀市立市民活動サポートセンター〕	info@yokosuka-supportcenter.jp
❹ (N)YMCAコミュニティサポート〔三浦市民交流センターニナイテ〕	info@miuracc.org
❺ (N)鎌倉市市民活動センター運営会議〔鎌倉市市民活動センター〕	rep@npo-kamakura.com
❻ (N)藤沢市民活動推進機構〔藤沢市市民活動推進センター〕	f-npoc@shonanfujisawa.com
❼ (N)湘南NPOサポートセンター〔ひらつか市民活動センター〕	info@hiratsuka-shimin.net
❽ ざま市民活動応援広場〔座間市民活動サポートセンター〕	ss-zama@feel.ocn.ne.jp
❾ (N)アクションポート横浜	info@actionport-yokohama.org
❿ (N)ぐらすかわさき	info@grassk.org
⓫ (N)まちラボ	info@machi-lab.net
⓬ 一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ	contact@soco-kana.jp

※(N)はNPO法人　※括弧内は運営施設名(2025年３月現在)

かながわNPO伴走応援プログラム2024報告書

（神奈川県「令和6年度NPOの組織基盤強化のための伴走支援事業」実施報告書）

2025年3月 発行

制作･編集　かながわNPO伴走応援プログラム事務局
（藤枝香織、五十嵐めぐみ、林純、細矢岳彦）
デザイン　樗木八恵子

発　　行　一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ
神奈川県藤沢市藤沢577寿ビル301
https://soco-kana.jp/

Nsapo